

「シニアライフ かわら版」



シニアライフを過ごすのに役立つ情報メモ



生活情報委員会 28.08

1995年の阪神・淡路大震災で亡くなった方の9割以上が木造家屋の倒壊が原因でした。

■ 今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率

地点	2014年版	2016年版
札幌市	0.92%	0.92%
青森市	4.6%	5.0%
盛岡市	4.2%	4.2%
仙台市	5.8%	5.8%
秋田市	7.4%	7.4%
山形市	3.6%	3.6%
福島市	6.7%	6.7%
水戸市	81%	81%
宇都宮市	13%	13%
前橋市	6.7%	6.9%
さいたま市	55%	55%
千葉市	85%	85%
東京都庁	47%	47%
横浜市	82%	81%
新潟市	13%	13%
富山市	7.2%	5.2%
金沢市	6.5%	6.5%
福井市	12%	12%
甲府市	50%	48%
長野市	13%	5.5%
岐阜市	26%	27%
静岡市	66%	68%
名古屋市	44%	45%
津市	60%	62%
大津市	11%	11%
京都市	13%	13%
大阪市	54%	55%
神戸市	43%	45%
奈良市	59%	61%
和歌山市	55%	57%
鳥取市	5.2%	5.2%
松江市	2.1%	2.1%
岡山市	40%	41%
広島市	22%	22%
山口市	4.5%	4.5%
徳島市	69%	71%
高松市	59%	61%
松山市	42%	44%
高知市	71%	73%
福岡市	8.3%	8.1%
佐賀市	8.2%	8.2%
長崎市	2.8%	2.6%
熊本市	7.8%	7.6%
大分市	54%	55%
宮崎市	43%	43%
鹿児島市	17%	18%
那覇市	20%	20%

(各都道府県の代表地点)

マイホームの健康診断をしませんか？

※ 大地震は何時、何処で起きても不思議ではない！

H28年4月14日に発生した「熊本地震」は左の表にあるように今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率として「7.6%」の低い確率の地域でした。

東日本大震災は5年前の3月11日に発生しています。大地震の発生、その確率が政府の地震調査委員会から発表されていますが、その大きさ発生場所は日本のどこで起こってもその大地震発生への備えをしておかなくてはならない。私達はこの体験を「教訓」にしなくてはならない。地震で、自分の建てた家に命を奪われてはならない！自分の家の耐震性を確認し、知っておくことが大切です！

※ まず、自分の家の耐震チェックをしましょう！

例えば、総合評点0.7点の場合は震度6弱で大破になる可能性があるの



まずはマイホームの構造健康度を簡単チェック!!

建築年からみる平均評点

建築年	昭和25 ~46年	昭和47 ~56年	昭和57 ~61年	昭和62 ~平成3年	平成4 ~8年	平成9 ~12年
平均評点	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	1.0

ご自宅の建築年はどこにあてはまりますか？

評点	判定	
1.5以上	◎ 倒壊しない	告示の安全基準
1.0以上~1.5未満	○ 一応倒壊しない	
0.7以上~1.0未満	△ 倒壊する可能性がある	耐震改修が必要
0.7未満	× 倒壊する可能性が高い	

※ 更に詳しくは『耐震診断』をしましょう！

評点とは診断で求められる数値で、1.0を超えると“安全”とされます。

『耐震診断』は何を調べ、何が分かるのか。

チェック内容：壁のバランス

・建築図面と目視で、家の形状を確認し、さらに図面どおりに壁が配置されているかも確認します。たとえ壁の量を満たしていたとしても、壁の配置バランスの悪さによって、耐震性をそこなう事もあります。

チェック内容：壁の量

・床下・天井裏から筋交いの有無をチェックし、どこに強い壁が入っているかを割り出します。

チェック内容：劣化度

・床下の湿度・含水率や、シロアリの被害がないかどうかをチェック。
・外側から、屋根・外壁などにゆがみやひびかないかチェック。
・床鳴り、柱の傾き、梁のたわみなどがなければチェック。

耐震性チェック

※ 『耐震診断』は誰が行い、いくら掛かるのか？

木材の腐朽、シロアリ被害でも家は倒壊する

『耐震診断』は一級建築士で更に耐震診断の知識と資格を持った技術者が行うことが安心です。区役所・市役所の窓口で「資格者」の紹介してもらえます。料金は有料になりますが、自治体によっては補助金を提供しているところもあります。それぞれのホームページで公開しています。「木造住宅耐震補強事業者協同組合」では資格者を要しており、無料で『耐震診断』を実施しています。
<http://www.mokutaikyoo.com/index.htm>

*掲載資料は木耐協の耐震テキストを引用しています。

① 壁を強くする!!

② 接合部をつなぎ止める!!

『耐震補強』とは建物の『耐震診断』で『評点』が1.0を下回っていた時に1.0以上の評点が得られるように耐震壁の量（長さ）とバランスの良い耐震壁配置を設計することです。また柱と梁、柱と土台の接合部が地震により、引き抜けないように耐震金物で補強します。更に建物の経年変化で、『劣化』の進んでいる部位を改善します。シロアリの駆除、床下の湿気対策、屋根の軽量化（瓦を金属屋根に）等も有効な手段です。耐震補強の優先順位と費用（予算）を考えて、無駄のない補強改修を実施しましょう！

「壁量充足」「壁配置バランス改善」「接合部の補強」が最も優先順位の高い耐震改修の進め方です。

補強の種類と優先順位	高価 ↓ 補強費用の目安 ↓ 安価	項目	優先順位		
			高い	普通	低い
		地盤改良			●
		無筋基礎に配筋して有筋基礎に		●	
		土瓦屋根を葺き替えて軽量化	●		
		水廻り等腐朽の進んだ柱・土台の付け替え・付け足し	●		
		ラスモルタル壁からサイディング壁に替え、外壁の軽量化			●
		水平剛性の確保のための床面の下地張替え		●	
		梁・胴差しの仕口部補強		●	
		バルコニーなどの軽量化			●
		耐力壁の追加	●		
		ホゾ抜け防止金物（柱頭・柱脚）の設置	●		
		筋かいの追加や面材（構造用合板等）による既存壁の補強	●		
		無筋基礎の有筋化		●	
		床・天井・小屋裏の火打ち梁の追加		●	
		ホゾ抜け防止金物（外付け）の設置	●		
		基礎・外壁ひび割れの補修	●		
		小屋裏雲筋かいの補強		●	
		ボルトナットの増し締め		●	

地震対策 家族編

事前準備 と 点検 が大切!

① 家族との連絡方法・集合場所を決めておきましょう

在宅時、勤務先、学校などいつでも被災するかわかりません。いざという時の集合場所を決めておきましょう。
また、非常時には災害用伝言ダイヤルサービス(171)なども利用できるように準備しましょう。

② 非常備蓄品を備えておきましょう

緊急事態から復旧するまでの最低3日分の食料・飲料水を用意しておきましょう。飲料水は1日3リットル(大人)が目安です。

③ 非常持出品を準備しておきましょう

緊急時に必要なものをすぐ持ち出せるよう、わかりやすい場所に非常持出袋を用意しておきましょう。男性なら15kg、女性なら10kgが目安です。



家具等の 転倒防止!!



年に1回は中身を点検しましょう!
食料品・飲料水の賞味期限やラジオ・懐中電灯が動作するかを確認し、古いものは買い替えておくことが大切です。



すぐやろう！！

“地震国日本”・・・世界の地震発生の20%は、日本です。
今回は「マイホームの健康診断」のお奨めです・・・。
人間と同じく、健康診断をし、常に地震に備えましょう・・・。
神戸大震災・東日本大震災・熊本大震災等近年においても各地で発生しております。
何時どこで発生しても不思議ではありません。
日頃の事前準備と点検を怠りなく、「我が家の震災対策」を家族一緒に、今日から準備して下さい。

地震対策・家族編ーおまけの具体例

1. 非常持ち出し用品の実例（チェックリスト）

- 懐中電灯 ヘルメット 携帯ラジオ 防災ずきん 軍手
- 電池 ホイッスル 食品 水 ライター ろうそく
- 現金 貯金通帳 印鑑 救急箱 常備薬（お薬手帳）
- 衣類 携帯トイレ 毛布 ナイフ 携帯電話用予備バッテリー
- ほ乳瓶・紙おむつ（乳幼児がいる方）

2. 家具等の転倒防止対策

- テーブル・イスの滑り止め
- 食器棚・タンスの転倒防止対策

1. L型金物で柱等にビス止め固定。
2. ポール式突っ張り棒。（天井が構造的にしっかりしている事を確認）
3. 突っ張り棒の代わりにしっかりした衣装箱をタンスと天井の間に隙間なく埋める。
4. 吊り戸棚等は扉が開かないように耐震蝶版、開放防止金物を取付。
5. ガラスの扉には飛散防止フィルム張り。
6. 家具の足下にくさびストッパー。
7. テレビ等、家具、家電品の底面に粘着シート（ジェルマット）

これらの耐震グッズはホームセンター等にあります。機会をつくって揃えましょう！

日本建築防災協会ホームページ <http://www.kenchiku-bosai.or.jp/>

生活情報委員会 委員 一級建築士 西村 修

※ ご推薦防災書籍・・・『東京防災』

発行：東京都総務局総合防災部防災管理課 / 協力：東京消防庁
東急ハンズ等で売っています。